



私の保育スケッチ

「ありがとう」



「だいじょうぶだよ。せんせいはせんせいだから！」

目にいっぱいの涙を溜めて、私の顔を真っ直ぐに見てくる大きな目。私の言葉を聞いて、周りにいた子どもたちは、

「だいじょうぶだよ。せんせいはせんせいだから！ねっ。」

「せんせいがおばさんじゃあいやなんだよ！　〇〇せんせいがいいんだよ！！」

と、一生懸命に伝えてくれる。私の胸に一直線に突き刺さってくる真剣なまなざし。

9月。運動会の練習時に、

「先生さ、おばさんだから速く走れるかな？」

と、ふと私がもらした言葉に、年少児がかけてくれたこれらの言葉。涙があふれ出してしまうよう眩しいふりをして手で目を覆う。素直な言葉が嬉しかった。

4月。私は人生で初めての年少組担任になった。2年前、人生初の「幼稚園の先生」デビューを果たしていたとはいえ、小学校での仕事が長かった私にとって、初めての集団生活を始める幼児がほとんどの年少組担任が務まるのだろうか？と、2年前の年中組担任だった時のふがいない保育がよみがえり、不安がよぎる。

そんな自信のもてなかった私に、副担任の先生の頼もしい言葉。

「先生、一緒にやりましょう。」

この言葉に勇気をもらい、大好きな家の人と離れて登園してくる子どもたちに幼稚園は楽しいところ、自分の好きなことができるところ、安心して過ごせるところ、ということが伝わるようにと、二人で保育を考える日々が始まった。

毎日、優しく温かい言葉があふれる年少組の保育室。もちろん、まだまだ自分の思いを上手に伝えることができないことから起こるいざこざもあるけれど、友達の悲しそうな顔を見て、ごめんねの顔になる心が育ってきている。幼稚園で何をして遊ぼうかと考えることもできている。保育室のちょっとした変化に気付いて、今日一日の生活の見通しがもてるようになってきている。先生になんか手伝ってもらわなくてもできるんだということを伝えてくる自信に満ちた顔も増えている。どんどん成長していく年少組の子どもたちに後れをとっていた私。そんな私に、「せんせいはせんせいだよ」と言ってくれたこの言葉が、どんなに私に自信をくれたかわからないかもしれないけれど、年少組のみんなが私を年少組の先生にしてくれた。ありがとう。

【幼稚園勤務】

